

## ■今月のポイント ～単収・食味 UP を目指して～

- ① 葉いもち対策: 取り置き苗を必ず処分しましょう。
- ② 水 管 理: 天候に応じた水管理で早期に有効分げつを確保し中干しを実施しましょう。
- ③ 除 草 剤: 除草剤はラベルの使用法に基づき適正に使用しましょう。
- ④ カメムシ 対 策: こまめな草刈りと本田の雑草防除でカメムシの発生密度を下げましょう。

### 生育状況

育苗期から移植期にかけて寒暖の差の影響もありましたがおおむね順調に経過しています。今後は茎数を確保する大切な時期となります。天候に応じた、適宜な水田管理をお願いします。

平年の梅雨入り 6/15 頃、梅雨明け 7/28 頃です。  
(昨年は梅雨入り 6/9、梅雨明け 7/22 でした)

### 展示圃の生育状況【ひとめぼれ】

(茎数は1株5本移植の本数)

調査日	草丈 (cm)	茎数 (本)	葉数 (葉)
6月5日	27.6	10.1	5.9
平年値	27.2	10.3	6.0
平年対比	101.7%	97.6%	117.5%

### 今後のスケジュール

		6月		7月		
		中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
稲の生育		分げつ期	有効茎決定期 8～9葉期	最高分げつ期 10～11葉期	幼穂形成期	減数分裂期 12～13葉期
水 管 理	水深	15cm	10cm	5cm	警戒態勢時 15cm 以上 注意態勢時 10cm 以上	
	日中浅水(3cm) 夜間かんがい	中干し(溝切り) 6/21～25から開始 して7/5頃まで 生育に応じて実施		前歴深水かんがい	低温が心配ない場合 間断かんがい	
		・有効茎を早めに確保 (好天時は浅水管理、低温時は深水管理)		・追肥(葉色、幼穂長の確認) ・穂いもち予防剤		
← 農道・畦畔の草刈り →						

### ポイント① 葉いもち対策 ～取り置き苗を必ず処分しましょう！～

⚠ 水田内、畦畔等に苗がある場合は、大至急土に埋めてください ⚠  
→ 葉いもちの発生源となります



① 取り置き苗は、土中に埋めて必ず処分しましょう。

※ 畦畔に上げたり裏返しても降雨があると枯れず、いもち病の発生源になることがあります。

② 水田をよく観察・巡回し、早期発見・早期防除に努めましょう！

③ 取り置き苗で発病を確認したらその圃場及び周辺圃場を観察し、本田発生があった場合は、薬剤による茎葉散布を実施しましょう。特別栽培米を作付の圃場は茎葉散布剤を使用した場合ふるさと純情米に変更となりますが、被害を最小限に抑えるため薬剤防除を最優先としましょう。

### ポイント② 水 管 理

～天候に応じた水管理で早期に有効分げつを確保し中干しを実施しましょう！～

水稻の安定生産に向けた第一歩は、**有効分げつ(穂をつける茎)の確保**の事がポイントです。天候に応じたキメ細かな水管理により分げつ促進につなげましょう！



#### 1. 分げつ期の水管理

① 晴れや曇りの場合(気温が高い場合)

水深3～5cm 以下の浅水管理で、分げつを促進させます。

② 低温の場合(気温15℃以下)

葉先が出る程度の深水管理で、稲体を寒さから保護します。ただし、深水管理を長期間続けると分げつは抑制され軟弱徒長となりやすいので、好天時は浅水管理が必要です。

③ 入水の時間

気温と水温の差の少ない朝夕に行います。水温の上がる日中は止水にし、水温を確保しましょう。

～中干しまでは、**田面を露出させない水管理**が基本となります～

天候に応じたこまめな水管理により、早期に有効分げつを確保する事が、収量アップのポイントです！



#### 2. 湧き(有害ガス)対策 ～除草機押し、水の入れ替えが効果的です～

生ワラや未熟な堆肥を施用した場合、ガスが湧き、根の活力低下や表層剥離がおこります。対策としては水の入れ替えや、除草機による中耕・ガス抜きが効果的です。土中に酸素が供給されます。

#### 3. 中干し・溝切り

落水し田面を干す事により、土中に酸素を供給し、根を活性化すると同時に無効分げつ(穂をつけない茎の発生)を抑える事が目的です。前年の作付が大豆・牧草などの場合は生育が旺盛で倒伏の恐れがあるため積極的に中干しを実施しましょう。

① 時 期	有効分げつ確保後(6月21～25日頃、1株当たりおよそ25～30本)～幼穂形成期前(7月5日頃)までとし、田面に小さなひび割れが生じ足跡が付く程度とする。		
② 溝 切 り	中干しにあわせて溝切りを実施する(落水後2～3日後)。溝切りの目安は10畝当り、2～4m間隔に6～8本程度。枕地部分も溝を掘り必ず水口や水尻につなげる。		
中干しを行う水田		中干しをしなくても良い水田	
* 水持ちの良いすぎる水田	* 地力の高い水田、有機物、施肥量の多い水田	* 水持ちの悪い水田	* 生育の遅れている水田
* 茎数が多い、葉色が濃い水田	(6月21～25日頃 25本/株以上)	* 茎数の少ない水田	(6月21～25日頃 25本/株以下)

#### 4. 中干し後の水管理

① 中干し後の入水は、始めの2～3日間は走水程度。その後は、間断かんがいとしましょう。

(一度に深水にすると酸素不足となり、根に障害が生じるので注意)

② 7月中旬頃(幼穂形成期)から4～6cm 程度の水深。その後徐々に10cm程度にする。

③ 7月下旬前後(減数分裂期)に、気温が17℃以下の低温が予想される場合は10cm 以上、低温時(気温17℃以下が続く場合)には15cm以上の深水としましょう。

④ 低温が全く心配ない場合は間断かんがい、ただし、低温時はすぐに深水管理としましょう。

**ポイント③ 中期除草剤について** ～除草剤はラベルに基づき適正に使用しましょう！～



**雑草の取りこぼしがあった場合は、中期除草剤で防除しましょう。**

特別栽培米 ⇨ バサグラン(落水) 1回のみ  
 ふるさと純情米 ⇨ レブラス(湛水)、クリンチャーバス ME(落水)、バサグラン(落水)等  
 雑草発生状況に合わせて体系処理 いずれも1回  
 ※各除草剤の効果対象雑草については、「春肥料施肥設計指導会資料予約申込書」35 ページに記載  
 しています。配布した補足資料も参考にしてください。

- ① 湛水散布の除草剤は散布後少なくとも3～5日間は水を移動させないようにしましょう(入水・落水・かけ流しをしない)。散布後に降雨があっても7日間は落水しないようにしましょう。
- ② 落水散布の場合、処理後2日以内の降雨は、効果が劣る場合があるので、晴天の時期を選んで散布するようにしましょう。
- ③ 薬剤によって使用時期等が異なりますので、適正使用を行い、早めの防除を心がけましょう。  
 ※雑草の発生状況を考慮し、適期に散布しましょう。

	商品名	剤型	主な対象雑草	使用時期	10a当り 使用量
湛水散布	レブラス	1キロ粒剤	水田一年生雑草、ホタルイ、オモダカ、クログワイ、シズイ等	移植後14日～ルビエ4葉期 ただし、収穫60日前まで	1kg
		ジャンボ			10個 (400g)
落水散布	クリンチャーバスME	液剤	水田一年生雑草、ホタルイ、オモダカ、クログワイ、シズイ等	移植後15日～ルビエ5葉期 ただし、収穫50日前まで (落水散布又はごく浅く湛水して散布)	1000ml (希釈水量: 70～100ℓ)
	バサグラン	粒剤	水田一年生雑草(イ科を除く)ホタルイ、オモダカ、クログワイ、シズイ等※クログワイは草丈15cm以下、シズイは20cm以下で使用	移植後15～55日 ただし、収穫60日前まで (落水散布又はごく浅く湛水して散布)	3～4kg
液剤		500～700ml (希釈水量: 70～100ℓ)			

**肥培管理** ケイ酸質資材の投入により稲の体を強化し倒伏やいもち病発生を軽減させます。

特に基肥でケイ酸質資材を投入していない場合は6月下旬に下記の肥料施用をお奨めします。  
 ※特別栽培米でも使用できます。

- けい酸加里プレミア 20キロ/10アール
- シリカ未来 40キロ/10アール
- マルチサポート1号 20～40キロ/10アール
- KSK28 1.4kg(1本)/10アール(水口施用可・大型区画圃場で推奨)

※極端に葉色が落ちている場合等は「つなぎ肥」として窒素成分の追肥を必要とすることがあります。ご不明な点は営農アドバイザーにご相談下さい。

**特別栽培米は、定められた肥料使用基準がありますので注意して下さい!**

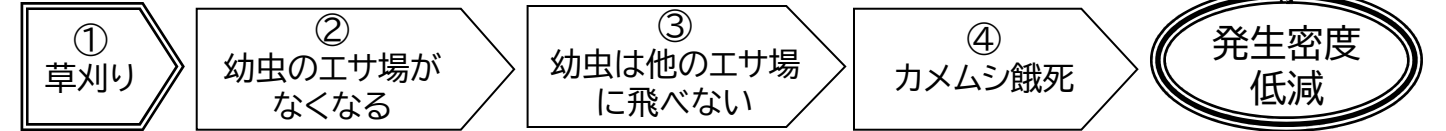
**栽培履歴 (作業内容・農薬名・肥料名・散布日・使用料など)  
 GAP チェックシートの記帳を忘れずに行いましょう!!**

**ポイント④ カメムシ対策** こまめな草刈りと本田の雑草防除でカメムシの発生密度を下げましょう!

アカスジカスミカメの幼虫は、主にイネ科雑草・牧草の穂をエサに発育します。こまめに畦畔、牧草、農道等の草刈りを行いましょう。また、水田内にイネ科雑草があると、カメムシの発生源となります。中後期除草剤で雑草防除をしましょう。



**カメムシ発生密度低減のメカニズム(越冬世代)**



カメムシの幼虫は羽が生えていないため、生息地の草を刈り取ると移動できずに餓死します。越冬後の幼虫はイネ科雑草に多く生息していることから、こまめに畦畔、農道等の草刈りを行うことで、発生密度を減らすことができます。

令和5年はカメムシ発生ほ場率が平年値より多かったことから、令和6年の越冬世代の発生量は多くなることが推測されます。出穂前までの草刈りを徹底しましょう。

～草刈後の残草や草取後の雑草は、用水路に流れないように注意しましょう。～

**非選択性除草剤(ラウンドアップ・バスタ等)で畦畔除草を実施する場合は、ドリフトに注意しましょう!**

稲にドリフトすると出荷・買い入れが出来なくなりますので、注意しましょう。

- 過去の春作業で、下記のような除草剤散布による畦畔除草の事例が報告がされています。
- ・水路際まで除草剤が掛かっており、水路にも飛散している。
- ・私有地に除草剤がドリフトしており、農作物等が枯れてしまっている。

畦畔には自作ほ場以外にも、共通の水路や耕作地以外の私有地等が隣接する場合があります。農薬を使用する際は、周囲の環境に配慮するとともに、他の生産者と情報交換し理解を得ることが大切です。また、飛散防止カバーを付ける、強風時は散布しない等、ドリフト防止の基本事項を徹底してください。

～令和6年産 GAP チェックシートの取り組み(6月編)～

令和5年産のGAPチェックシート集計結果からチェック率の低い項目を毎月紹介していきます。令和6年産ではチェック欄に○がつくよう取り組んでいきましょう!

- 「(推奨項目)農薬の調合用の器具は、適切なものを持っている」(64.4%)
- 「(必須項目)喫煙場所と作業場、資材置き場は異なる場所に設置されている」(64.3%)
- 必須項目は特に意識して取り組むようにしましょう。

■水稻の栽培、農薬使用等に関するお問い合わせは…

平日 午前8:30～午後5:00

衣川地域センター営農ダイヤル	営農アドバイザー携帯電話
<b>52-3204</b>	080-5559-8955(小野寺 良)
衣川地域センター営農経済課	080-6027-6137(伊藤 俊義)
<b>52-3212</b>	090-4478-9918(高橋 明子)

■生産資材・生活資材のご注文・配達…

拠点配送センター 0120-516-911(フリーダイヤル)

■生産資材等の直取り・窓口供給は…

衣川資材センター 52-3214

営業時間:午前8:30～午後5:00

休日対応 6・7月 土曜日 午前8:30～正午 日曜・祝祭日は休業

LINE 365アグリネット  
**友だち募集中**  
 @703kysml  
 うれしい情報をLINEでお届け!

LINEにて営農情報を発信中です! 上記QRコードからお友達登録をお願いします。